

ふれあい活カゆとり

すみだ

# We!



## すみだの風景 隅田川最古の橋とは

これまでも紹介してきましたが、文献に初めて隅田川のこと  
が記されるようになったのは平  
安時代のこと。現在よりもはる  
かに川幅が広く、橋は架かって  
いませんでした。

はじめて橋が架けられたのは  
治承4年（1180）に源頼朝  
が鎌倉に進軍するために、江戸  
一族に命じて浮橋を渡したとき  
です。「平家物語」や「源平闘  
争録」、「義経記」の記述をあわ  
せると、隅田川に川船や海船を  
数千艘集めて3日で組み、板を  
乗せて浮橋を作り、これを渡つ

て進軍したというのです。もち  
ろん、これは一時的な橋でした。  
この過程で、頼朝は東国武士た  
ちを集結させながら武蔵に入国  
鎌倉において幕府を開きました。  
こうしてみると、一時的な橋と  
はいえ、歴史の大きな流れに位  
置したわけですから、その重要  
性ははかりしれません。こうし  
た源頼朝の隅田川を渡る話は、  
江戸時代後期の錦絵にも取り上  
げられ、武者たちが隅田川の浮  
橋を勇壮にわたる臨場感あふれ  
る描写で残されています。（本  
紙第2号で紹介した歌川国芳「隅  
田川筏渡之図」など）。

その後、鎌倉時代も終わりに  
近づいた正応2年（1289）  
には後深草院二条という女性が  
隅田川を訪れたことを「とはず  
がたり」に著しています。ここ  
には、隅田川には都の清水、祇  
園にあるような橋が架かってい  
たと記されていますが、ほかに  
まったく関連する資料がないこ  
とから、この橋は隅田川の支流  
の川に架かる小さな橋ではない  
かと考えられます。興味深いこ  
とには、地元の人々は隅田川を「す  
だ川」と呼ぶことが紹介されて  
いるのです。

隅田川を隔てて武蔵と下総が  
分かれていたこの周辺は、交通  
の要所であるため常に重要視さ  
れていたのでしょうか。中世を通  
じて武士たちの覇権争いにより  
領土が変わっていました。  
戦国時代になると太田道灌が  
隅田川に3本の長橋を架設して

いたことが「梅花無尽蔵」にみ  
えます。

先ほど紹介した頼朝渡河の話  
は、隅田川周辺ですから現在の  
白鬚橋より北側の地域のこと  
です。さらに河口に近いエリア  
は、牛島と呼ばれていました。  
その範囲は広く北限は向島五丁  
目の首都高速6号線向島ランプ  
入口付近です。南限は明確では  
ありませんが、駒形橋から厩橋  
のあたりと考えられています。  
牛島の地名は、古くは鎌倉時代  
に成立していた「義経記」に「う  
しま」と標記されて登場します。  
南北朝時代の古文書では牛島氏  
の存在が確認できます。牛島は  
戦国時代から江戸時代の初めに  
かけて重要な地域であったよう  
で、戦国大名後北条氏の支配領  
域が記された「小田原氏所領役  
帳」や江戸時代初期の絵図にも  
牛島の記載をみることができま  
す。

はじめて隅田川に土木工事を  
もって架けられた橋は、千住大  
橋です。徳川家康が江戸に入府  
した後の文禄3年（1594）  
のことで、現在の両国橋の架橋  
までは「おおはし」と呼ばれて  
いました。架けられた位置は現  
在よりも200×220メート  
ルほど上流だったようです。天  
和4年（1684）に現在の位  
置に確定されました。

次いで架けられたのは皆さん  
もよくご存知の両国橋（寛文元  
年（1661））ですが、架橋  
までの期間は実に30年以上もあ

りました。千住大橋が架けられ  
たことにより、橋場の渡し（現  
在の白鬚橋）を通過していた街  
道筋が千住に移ることになりま  
した。

参考 「社会教育だより」  
（墨田区教育委員会）  
平成5年7月



寛文11年4月  
経師屋加兵衛板「新板江戸外  
絵図（深川・本所・浅草）」（両国  
橋周辺）— 国立公文書館所蔵—